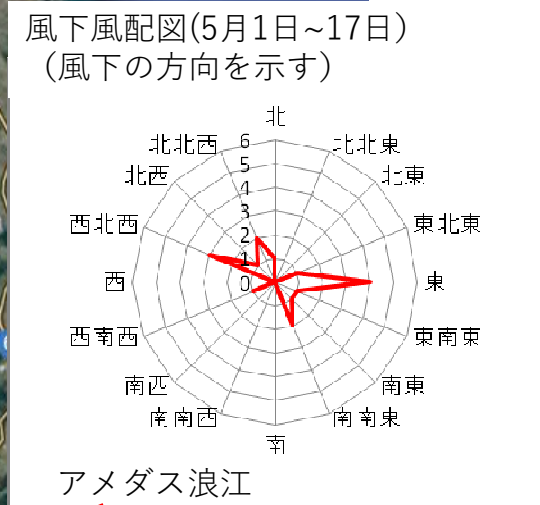
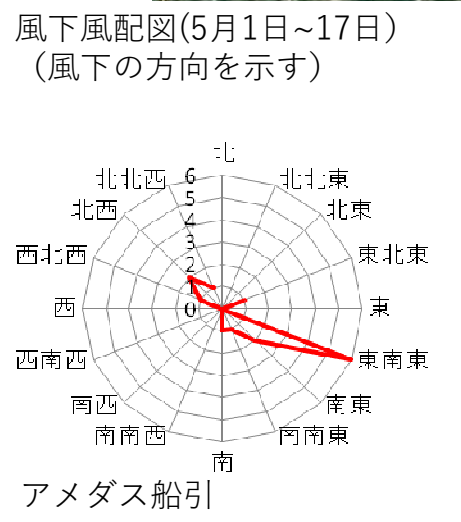
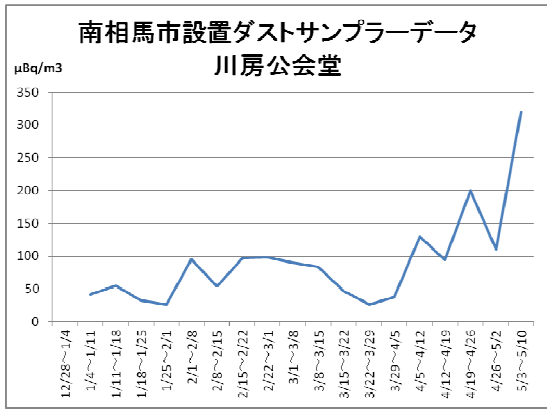


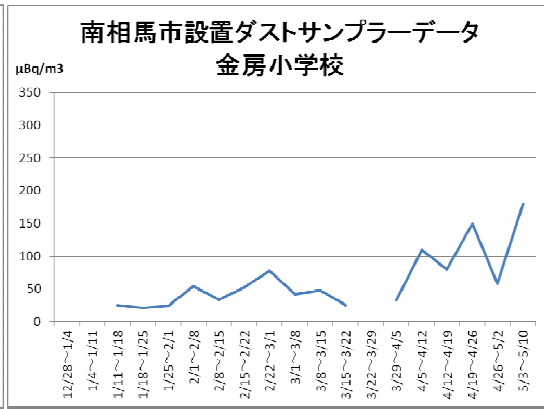
リネン吸着法調査結果と風向の関係



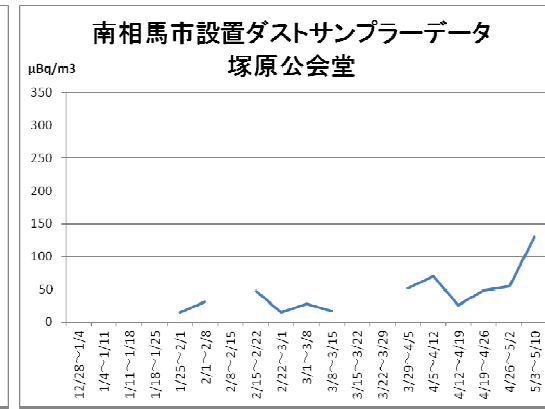
南相馬市が独自に10箇所でエアダスト測定（2015年より）



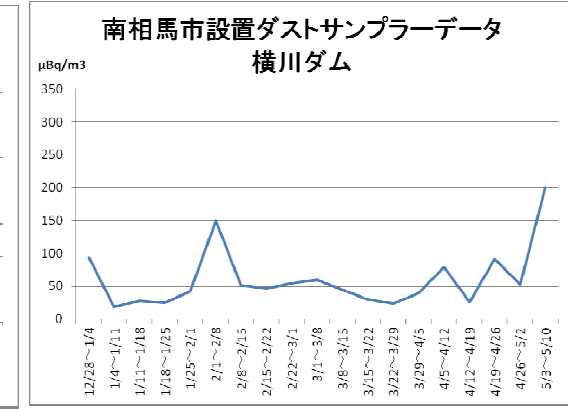
福島第一原発より16km付近



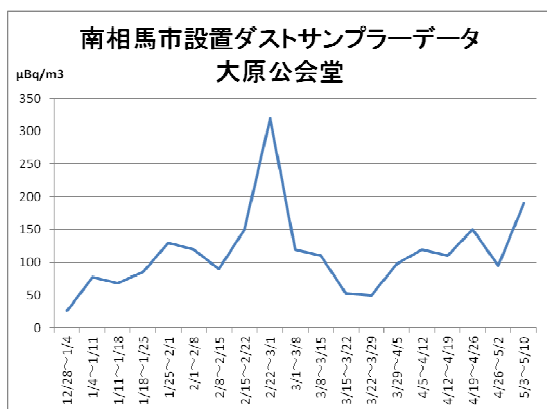
福島第一原発より16km付近



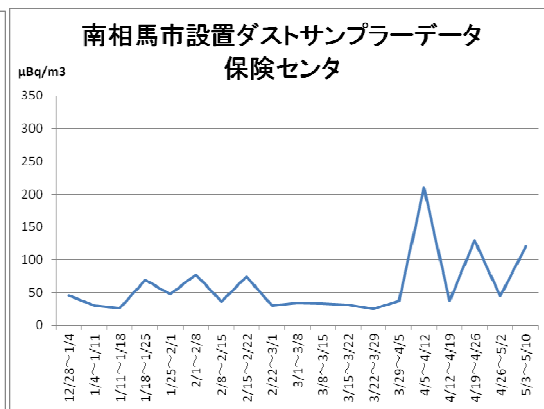
福島第一原発より16km付近



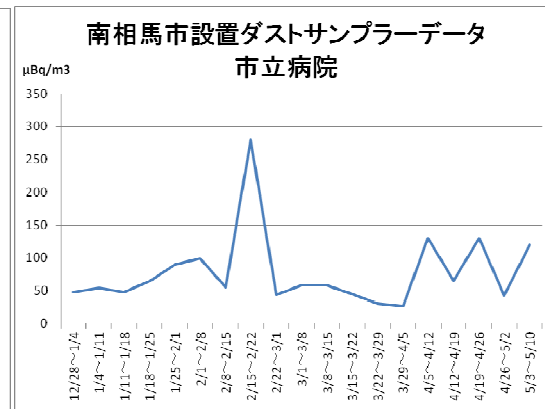
福島第一原発より22km付近



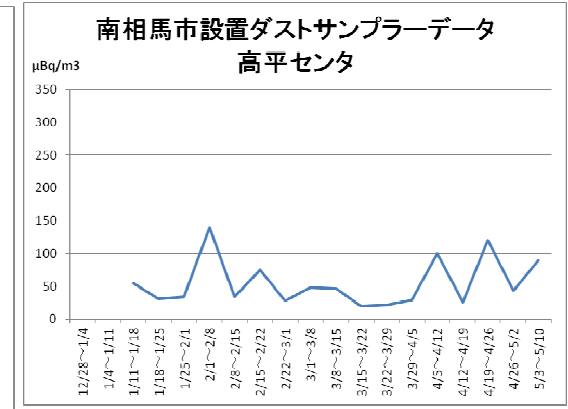
福島第一原発より29km付近



福島第一原発より25km付近



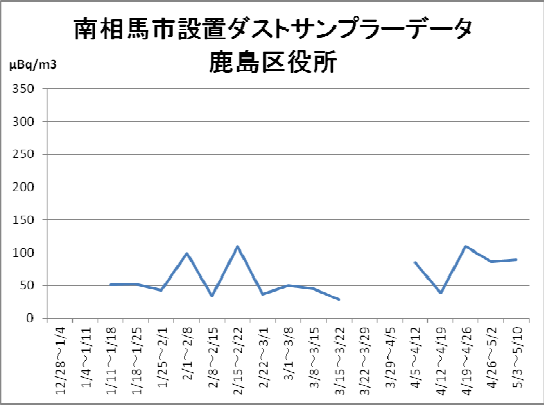
福島第一原発より25km付近



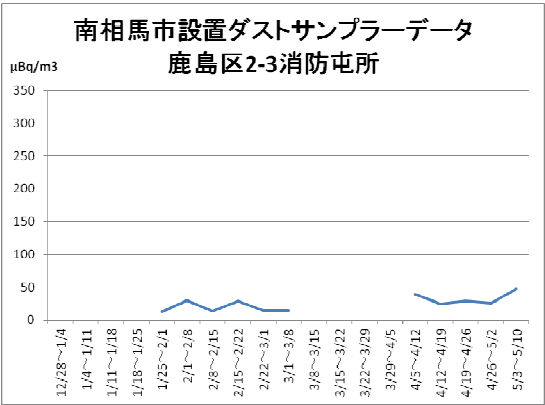
福島第一原発より25km付近

南相馬市が独自に10箇所でエアダスト測定（2015年より）

広報みなみそうま「おしらせ版」6月号



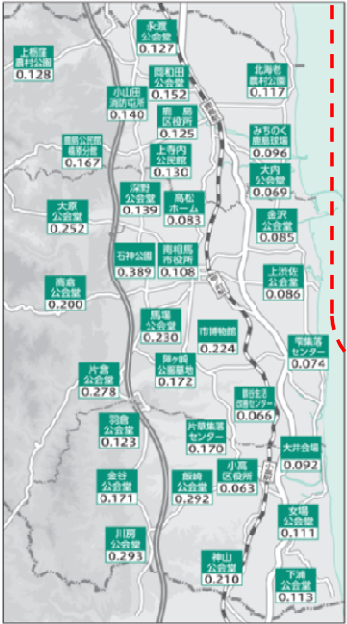
福島第一原発より32km付近



福島第一原発より32km付近

環境放射線モニタリング結果

問合せ 生活環境課 ☎5 2 3 1
市内の空間放射線量を掲載しています。
※測定日時：5月30日正午、単位はμSv/h、地上1m地点で測定



※市内約270カ所の測定結果が原子力規制委員会ホームページで公開されています。

大気浮遊じんモニタリング結果

問合せ 生活環境課 ☎5 2 3 1
ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1mあたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点	セシウム	放射性濃度 (mBq/m³)
川原公会堂 (川原)	134	0.047
小倉小学校 (鹿島)	137	0.320
鹿島区役所 (西町)	134	0.028
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.180
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.020
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.130
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.028
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.089
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.020
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.047
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.033
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.200
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.031
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.120
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.089
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.089
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.018
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.120
鹿島区立図書館 (鹿島)	134	0.026
鹿島区立図書館 (鹿島)	137	0.190

※「不検出」とは検出限界値未満を示します。検出限界値はおおむね0.02～0.03 mBq/m³です。

渡瀬正己京都大学名誉教授による解説

今回の測定でもセシウム137濃度は、引き続き、平均値で0.1 mBq/m³と低い値を示しました。事故直後に環境中にあるセシウム134とセシウム137は、ほぼ同じ濃度でしたが、現在、セシウム134は、ほとんど観測されなくなっています。これは、セシウム137の半減期がおおよそ30年であるのに対し、セシウム134の半減期はおおよそ2年であるためです。

水道水のモニタリング結果

問合せ 鹿島区/相馬地方広域水道企業団 ☎1020 ☎3547
小高区・鹿島区/水道課 (単位: Bq/kg)

対象施設	検査日	検査結果
第1浄水場	5月29日	不検出
第2浄水場	5月26日	不検出
小高北部浄水場	5月24日	不検出
小高西部浄水場		
牛越浄水場		
大谷浄水場		
矢川原浄水場		
大野台浄水場		
鹿島第2水源池		

※「不検出」とは検出限界値未満を示します。検出限界値はおおむね1 Bq/kgです。

旧避難指示区域などの人口

問合せ 被災者支援・定住推進課 ☎5 2 2 3
平成29年5月12日現在

区域名	住民登録状況	市内居住状況
旧避難指示区域 (小高・鹿島区の一部)	9,875	2,140
旧避難指示区域 (小高・鹿島区の一部)	2	0
その他の区域 (鹿島・鹿島区)	52,315	12
合計	62,192	2,152

住民登録状況は住民基本台帳、居住状況は避難者情報に基づいて算出しています。

まとめ

- 浪江町山林火災は12日間にわたり燃え続け、自衛隊機延べ101機、自衛隊員延べ約2650人が出動した過去最大規模の山林火災。現場は帰還困難区域であり高濃度に汚染した森林、落ち葉などが12日間にわたり燃え続けた。
- 山林火災での放射能拡散は大気中粉塵の放射能を測定しなければ評価できない。空間線量率ではその影響は評価できない。
- 我々の実施したリネン吸着法調査、エアダストサンプラ調査によれば、放射能の拡散は広範囲に及び、少なくとも北側17kmの南相馬市原町区、西側14kmの田村市都路や葛尾村まで到達した。更に広範囲に広がったと推定できる。
- 石熊公民館のエアダストサンプラ (29.1mBq/m^3)、三つ森山入り口のリネン ($125\text{mBq/m}^2\cdot\text{h}$) など局所的に極めて高濃度が検出された。放射能再拡散はプルーム状（放射能雲）に流れ、一様に希釈されるわけではないことを示している。風向、地形などの影響により、局所的に極めて高濃度な放射能が滞留する可能性がある。また場合によってはそれを人が吸い込んだ可能性も考えられる。火災現場や上空はこれらよりも数桁高い値になったことが推定される。
- 国や福島県をはじめとする自治体は、今回の火災をふまえ、汚染地域での山林火災防止策、延焼拡大防止策、避難基準などを早急に確立すべきである。
- 内部被ばくや放射能再拡散が問題である。国や自治体は、山林火災をはじめ環境中の放射能汚染実態の評価において、大気中粉塵の放射能汚染濃度の監視を強化すべきである。
- リネン吸着法による平常時からの監視が重要である。

今後の課題

- 広範囲への放射能二次拡散のデータを更に補強するため、山林火災鎮火後のリネン吸着法データを継続して収集中。今後、そのデータを含めて分析する。
- 関連市町村、福島県、環境省等へデータ提供と山林火災防止、拡大防止、被ばく防護策立案の要求。フクイチからの事故による二次拡散に備え、大気中粉塵の監視、被ばく防護策の立案要求。
- 山林火災をはじめ、事故や災害などによる放射能二次拡散にそなえ、リネン吸着法による大気中粉塵監視を継続する。
- リネン吸着法とエアダストサンブラ測定的相关データ、リネン吸着法の特性データを更に収集する。

ご清聴ありがとうございました。

